

ごみステーションにおける防鳥ネットの実証実験について

カラス等によるごみステーションの散乱対策のため、より効果の高い防鳥ネットの検討を行い、既存の防鳥ネットを利用し、安価で作成しやすい「袋状の防鳥ネット」で実証実験を行った。

1 効果の高い防鳥ネットについて

本市で無償貸与を行っている防鳥ネット大（4m×3m）を利用し、袋状（封筒状）に加工した。

2 実証実験について

(1)期間：令和4年3月上旬～5月末

(2)場所：門司区畑、小倉北区高坊、小倉南区下貫、八幡東区日の出、戸畑区天神(5か所)

※ 北九州市環境衛生総連合会の協力で、散乱が多く、地域の協力が得られるごみステーションを選定。

3 実証実験結果

【効果】

- ・ 散乱が多いごみステーションで散乱がなくなり、一定の効果が認められた。
- ・ しっかりと袋部分に入れれば、カラスが中身をネットから引っ張り出しにくい。
- ・ 比較的安価で容易に作成が可能。

【使用時の注意点】

- ・ フェンスや柵など背後にネットを吊る場所が必要。
- ・ 袋部分にしっかりと入れる管理のために、利用者への周知など地域の協力が必要。
- ・ 開口部を広げる必要があり、ごみの出し入れに手間がかかる。
- ・ 汚れたネットは住民が触りたがらないため、適宜、ネットの清掃が必要

※ 実証実験を行った地域からは「今後も継続して使用したい」との意見を得た。

通常防鳥ネットと同様に地域の協力が重要ではあるが、カラス等による散乱対策として一定の効果があると評価できるため、地域の実情に合わせた散乱対策の選択肢の一つとして勧めてゆく。

4 今後の対応

- ・ HPや「ていたんプレス」等の広報ツールを利用し、散乱対策としてお知らせする。
- ・ 環境衛生総連合会の会議等において、情報提供を行う。
- ・ 地域からの散乱対策の相談に対して、見本の提供や作成方法の説明など、導入希望に対し丁寧に対応を行う。

5 今後の散乱ステーションの対策の徹底について

- ・散乱の原因に応じた適切な対策を徹底的に展開する。

散乱原因	主な対策
ワンルームマンションなどの単身者が、収集日や時間を守っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ マンション管理者と協力して、ステーションの改良と住民への啓発チラシの配布 ・ 環境センター職員によるパトロールの強化 ・ 環境センター職員による違反ごみの開封調査を行い、違反者が特定できた場合、直接指導 ・ 外国人を対象にした日本語学校等でのごみ出しマナーの説明会の開催 ・ 啓発看板や掲示幕の設置による住民へのごみ出しルール、マナーの徹底（外国語表記を含む）
学生など、基本的な生活指導が必要なところ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と協力し、新生説明会等での学生指導の徹底 ・ マンション管理者と協力して、ステーションの改良と住民への啓発チラシの配布 ・ 環境センター職員によるパトロールの強化 ・ 環境センター職員による違反ごみの開封調査を行い、違反者が特定できた場合、直接指導 ・ 外国人を対象にした日本語学校等でのごみ出しマナーの説明会の開催 ・ 啓発看板や掲示幕の設置による住民へのごみ出しルール、マナーの徹底（外国語表記を含む）
防鳥ネットのサイズが小さい、ごみをしっかり覆っていない、対策を講じていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会との連携による啓発看板や掲示幕の設置による住民へのごみ出しルール、マナーの徹底 ・ ごみステーション管理者に対する防鳥ネットや簡易集積容器の設置指導と補助金の案内。
事業系ごみが持ち出されているところ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散乱ごみステーション周辺の事業所への訪問指導 ・ 業界団体へのルール周知 ・ 環境センター職員による違反ごみの開封調査を行い、違反者が特定できた場合、直接指導
市外・他エリアからの持ち込が多いところ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 啓発看板や掲示幕の設置による住民へのごみ出しルール、マナーの徹底 ・ 環境センター職員によるパトロールの強化 ・ 環境センターによる違反ごみの開封調査を行い、違反者が特定できた場合、直接指導 ・ 本市にごみを搬入している自治体への監督指導依頼

袋タイプの防鳥ネットの作り方！

	<p>使用するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防鳥ネット大（4 m×3 m） ○結束バンド（幅4 mm以下） 12本 ○はさみ
	<p>上の部分を1 m程度残して折り重ねる。 （この上の1 mの部分がふたになります。）</p>
	<p>折り重ねた端の部分を、内側にクルクルと3回巻き込み、結束バンドでとめる。 順々に約30 cmごとに等間隔で6か所とめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 隙間をカラスが狙うため、しっかりと巻き込むことが重要。 ※ 巻き込みが難しい場合は、結束バンドの間隔を狭くする。
	<p>左右両方とも同じように結束バンドで止めたら完成です。</p> <p>上の1 mの部分がふたになるので、被せてください。</p> <p>横からもカラスに荒らされる隙間はありません。</p>

【使用例】



ふたの部分を持ち上げて、袋部分を広げます。



上から、袋の部分に確実に入れます。



袋の部分に入れたら、上からふたの部分をかぶせます。



隙間が無いようにふたの部分を整えて完了です。

実証実験の結果 (例)

門司区畑 (設置前)



(設置後)



八幡東区日の出 (設置前)



(設置後)

